

日本神経精神薬理学会
第52回理事会（2011年度）議事録

日 時：2012年4月13日（金）15:00～18:00

場 所：コンベンションルーム・AP浜松町 会議室「B」

（〒105-0011 東京都港区芝公園 2-4-1 芝パークビル B 館地下 1F）

出席者：山脇成人（理事長）、池田和隆、大熊誠太郎、大森哲郎、鈴木 勉、曾良一郎、仲田義啓、
中村 純、西川 徹、南 雅文、山田清文、山本経之 各理事
加藤進昌 監事、齋藤利和 アドバイザー

欠席者：石郷岡純、荻田喜代一、神庭重信、野村総一郎 各理事、
馬場明道 監事、米田幸雄 アドバイザー

記 録：中川庸幸（事務局：学会支援機構）

冒頭に山脇成人理事長から前回（第51回）理事会議事録（案）および持ち回り理事会議決事項一覧が提出され、異議なく承認された。

1) 前回理事会議事に関する補足

池田総務委員長から前回理事会で協議されていた以下の件について、補足の経過報告がなされた。

(1) CINP との連携について

① CINP への入会勧誘の依頼について

現在までに 83 名の入会申請があり、日本全体では 144 名が CINP に入会している。CINP の国別構成数では、2 番目に多い国となった。

② 28th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (Stockholm, Sweden on 3 - 7 June 2012) について

2012年6月3日～7日にて、CINP2012 がストックホルムで開催される。2012年2月1日現在で日本からは 112 名がポスター演題登録を行い、こちらも国別登録数ではトップである。

(2) その他

基礎と臨床で2年間交代として運営されてきた理事長選任について、仲田理事から以下の提案があった。

・統合問題や国際対応など、学会の過渡期でもあるので、慣例に拘らず、適材・適所に臨機応変に対応していくべきである。

総務委員会で役員選出規程を確認したところ、現行では臨床系・基礎系が交互で就任しなくてはならないとの定めはなく、継続した就任でも問題がないことを確認した。

2) 持ち回り理事会議事に関する補足

脳科学研究関連連合への参加については、当初、早急に判断すべきでないとの意見もあり、当会としては慎重に行動していたが、他学会の意見など情報収集した結果、協力していくべきものであることから、再度、理事会内で報告・審議を行い、加盟について承認がなされた。

I. 報告事項

1. 2012年合同年会（宇都宮）について（石郷岡会長欠席のため山脇理事長）

順調に準備が進められているとの報告がなされた。

2. 2013年合同年会（沖縄）について（仲田次期会長）

仲田次期会長から以下の通り年会準備状況について報告がなされた。

第43回日本神経精神薬理学会・第23回日本臨床精神神経薬理学会沖縄合同年会

日 程：2013年10月24日（木）～26日（土）（10月23日に理事会等開催および設営）

会 場：沖縄コンベンションセンター

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1

テーマ：「効率性と有用性の両立を目指した薬物療法－寛解と回復に向けて－」

「Pharmacotherapy Fulfilling Satisfactory Efficiency and Efficacy toward Remission and Recovery for Psychiatric Diseases」

3. 脳科学関連学会連合について（山脇理事長）

今後、規約の制定や新たな活動があれば、随時報告する。

4. CINP 選挙について（池田理事）

2011年12月4日～8日にハワイでACNP 50th Anniversary Meetingが開催された際、CINPの次期役員候補者選考委員会が開催され、CINP次期理事長の候補（CINPの委員会が2名を指名）に山脇先成人先生（JSNP理事長）が選考された。

対応組織として、有志による国際学会連携推進WGを発足し、WG長にはJSNP総務委員長が担当した。一括メール配信のような選挙活動は禁止されているため、海外へは、有志による個別の依頼を送るとともに、国内についても組織活動は行わず、国内のCINP会員に対して、個別に協力・支援を求める形の運動を展開した。国内CINP会員の大半から山脇先生指示する意思のご返事をいただいております、明るい話題が提供できるのではないかと期待している。

5. ECNP Nomenclature 委員会について（山脇理事長）

ECNPが主導となりCINP・ACNP・AsCNPを取りまとめて、Nomenclature委員会が組織されている。宇都宮の大会でもセッションも設けたので、アジア（AsCNP）としての意見をまとめ、組織の意見として提案できる体制を設置していきたい。

6. CINP, ACNP, AsCNP 等国际対応について（山脇理事長）

CINP, ECNPもアジアを意識している。ACNPもAsCNP・JSNPにそれぞれ10名の招待枠を設けている。グローバルな流れはアジアに吹いており、海外からの日本の窓口はJSNPが認識されているので、統合問題に関しても当会の特長を活かせるように活動を進めていきたい。

7. 各種委員会報告

a) 総務委員会：理事改選について他（池田理事）

1) 以下の通り会員報告（2011年12月1日から2012年4月12日）がなされた。

会員数：1,276名（2012年4月12日現在）

内訳：名誉会員 27名、功労会員 13名、評議員 177名、正会員 975名、
学生会員 66名、賛助会員 18社

新入会： 51名

退会：本人申出 23名

逝去 2名

物故者 一般会員 門田 健先生 2012年2月7日ご家族より連絡あり。
一般会員 磨田みどり先生 所属先から連絡有。

2) 理事・監事選挙について

本年は理事・監事の半数改選年となる。被選挙人名簿の確定作業を7月に行い、評議員会会場にて、投票を行う。今回審議の新評議員については、今年の評議員会で承認となるため、選挙権を有さないことが説明された。

b) 長期計画委員会：CNPの統合問題について（石郷岡理事欠席のため山脇理事長）

2011年大会で「両学会の今後を考える－統合をめぐる－」合同委員会特別企画を開催した。その後も様々な意見や動きがあったが、NPの立場・要望は伝えているので、あとは本学会として、より魅力のある学会になるように努力していく。また、宇都宮の大会でも「両学会の今後を考える－再び統合をめぐる－」との合同委員会特別企画が予定されており、上記の方針のもと、自然な流れで進むよう協力依頼がなされた。

c) 学術賞選考委員会（山田理事）

1) JSNP Excellent Presentation Award for CINP 2012

学術賞選考委員会は前回の理事会で臨床系2名の増員が認められ、合計10名の委員で各賞の審査を行う。今回、14名の応募者があった。公示では、20名を上限として選出する予定であったため、絶対評価として若手をサポートする方向で審査を進めたいとの報告がなされた。

2) 学術奨励賞について

従来学会賞から改訂し、2012年から学術奨励賞と優秀論文賞（学会賞の後継）を新設した。学術奨励賞の締切日は3月末日として、学会誌・ホームページ等で公示を行った。本年は、基礎系から1名の応募があり、優秀論文賞と一緒に審査を行う予定である。本賞は評議員推薦書が必要であるが、今回の推薦者が名誉会員であった。評議員資格での推薦とするかとの確認事項があり、理事会で方針を決定いただきたいとの依頼がなされた。理事会での協議の結果、名誉会員は評議員就任者であったため、推薦は有効であるとした。

d) 編集委員会（南理事）

雑誌刊行状況、依頼状況、査読状況につき以下の報告がなされた。

1. 刊行状況、依頼状況、査読状況

1) 刊行状況

31巻（2011年）：総説22，MR6，原著3，短報1，CINP優秀賞を掲載。

32巻（2012年）：総説3，MR4，原著1とAsCNP優秀賞，追悼文を掲載。

3号からは、学会シンポジウムを掲載していく予定である。また新名誉会員紹介も掲載予定。

2) 依頼状況

依頼論文で今年ご寄稿いただいた原稿は2編である（学会シンポジウムは除く）。

3) 投稿状況

2011年の投稿は総説2（うち英文1），MR2，原著2（うち英文1），短報2（うち英文1）の計8編。

2012年の投稿はMR1，原著2の計3編（4/10現在）。

2. 執筆依頼・企画

例年どおり、2011年の学会シンポジウムの依頼原稿を掲載していく。

3. 投稿論文の投稿促進の対応策について

投稿促進を目的として、他学会でも採用されている座長推薦制度を採用してはどうかとの提案があった。第42回年会から試みることになり石郷岡大会長へ依頼することになった。

現状では以下の方向性で、推薦書類を作成する。

1) 一般演題（口頭・ポスター）…座長推薦論文対象にする、ミニレビューでも可。

座長は、発表時に推薦したい演題があれば、添えつけの推薦書類にコメントを記載し、終了後、タイムキーパーに渡す。その後、事務局へ提出・回収する、推薦理由の一文は、編集委員会からの依頼の際に、そのコメントを付して、投稿を促す。

2) シンポジウム…これまでどおり、総説・ミニレビューにて依頼する。

II. 審議事項

1. トランスレーショナルリサーチ推進委員会の設置（山脇理事長）

石郷岡理事から提言のあったトランスレーショナルリサーチ委員会の設置について、協議を行った。

同委員会の主な活動は、基礎の研究室から有望な薬物（シーズ）を見つけ出し、臨床開発の早期の段階を多施設で医師主導の治験の形で開始することにある。NPは基礎と臨床がマッチングしている学会であり、臨床開発のプロトコル作成支援を行う、研究班立ち上げ支援を行うなどの役

割が考えられる。東京女子医科大学病院では、臨床研究支援センター（iCRIC）が設立され、上記のような活動を行っている。同じような施設が他大学でもあり、学会としても社会貢献活動として意義があると考えられる。また、若手の臨床系の会員には大変魅力ある学会になると思われる。以上の議論を経て、委員会の設置について、承認された。

委員長には石郷岡理事にお願いすることになり、人選については、委員長に一任とした。

本年は多くの新評議員会が承認される予定であるため、新評議員も積極的に委員会活動に参加できるように考慮することが確認された。

2. ベンゾジアゼピン問題検討作業部会の設置（山脇理事長）

CNPでも議論になっているが、本会も問題として取り上げ、学会としての意見を発信できるよう検討していくことになった。設置メンバーについては、検討中である。

3. Nomenclature 問題検討作業部会の設置（山脇理事長）

報告事項：4を参照。

4. 日本神経精神薬理学会利益相反（COI）指針の件（中村理事）

中村理事から当会の利益相反（COI）指針・運用細則の確立について提案がなされ、以下の項目について、承認された。

- 1) 本年の宇都宮大会から発表者に対しては、COI スライドの提出を両大会長から合同年会事務局としてお願いすることになった。
- 2) 当会として新たに作成することは予定しておらず、（公社）日本神経精神学会の指針・運用細則に準じる形で整備していくことを予定している。
- 3) 施行にあたっては、本年の評議員会/総会で案を提示し一年間の施行期間等の承認を得る。
- 4) 施行にあたっては、最初に役員が自己申告書を提出する必要があることから、倫理委員会で申告書案を検討し、理事会へ提出する。

5. 2011 年度収支決算報告及び監査報告について（大熊理事）

1) 2011 年度収支決算について

2011 年度収支決算および神経精神薬理振興基金決算について報告がなされ、承認された。

なお、納入率が 80%を切っていることから、2011 年度第 3 回目の会費請求時に多年度未納者に対しては、会員資格喪失となる旨を通知した。今回の理事会である程度の滞納者の除名について承認し、アクティビティのある会員の比率を高くする。

2) 2011 年度監査報告書について

加藤監事、馬場監事より監査の結果、収支の記載が適正であると認められていることが報告された。

6. 学生更新について（池田理事）

学生会員制度を 2011 年から設置した。学生会員は年会費が半額であることから更新制度とし、現在の提出状況が報告された。更新申請提出者が多くないことから再度、意思を確認することになった。再確認で返答がない場合には、一般会員へ種別変更手続きを行うことが承認された。

7. 会費滞納者について（池田理事）

前回の理事会でも報告・審議し、多年度の会費滞納者には特例申請を認め、継続の意思がある場合には、3 年分年会費を納めることを条件として、会員継続の依頼を行った。

159 名の対象者のうち、退会届を提出したのは 2 名、特例申請を行ったものも 2 名であった。学会としては、継続手続きについて、特例申請などの制度を設けて、救済措置を行ったため、5 年以上未納者については、除籍の手続きを行うことが承認された。

なお、役員で一覧を確認し、救済依頼ができる方や納入依頼ができる方は、個別に対応し、総務委員長へ報告することになった。

8. 新入会者希望者承認の件（山協理事長）

本年1月1日から4月11日までに51名の入会申込者があったことが報告され、全員が承認された。

9. 新評議員の承認の件（山協理事長）

以下の45名が推薦されており、審議の結果、新評議員候補者として評議員会へ推薦することが承認された。

（申請受付順：敬称略）

津田 誠（九州大学大学院薬学研究院薬理学分野）

塚田秀夫（浜松ホトニクス（株）中央研究所）

中川 伸（北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野）

中川西修（東北薬科大学薬理学）

丹生谷正史（防衛医科大学精神科）

古屋敷智之（京都大学医学研究科神経・細胞薬理学分野）

谷内一彦（東北大学大学院医学系研究科・機能薬理学分野）

吉川武男（理化学研究所脳科学総合研究センター）

荒井裕一朗（東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科）

岩橋和彦（麻布大学健康管理センター・生理学）

三枝 禎（日本大学歯学部薬理学）

竹林 実（呉医療センター精神科）

池本桂子（いわき市立総合盤城共立病院リエゾン科）

福田正人（群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学）

米田 博（大阪医科大学総合医学講座神経精神医学教室）

河原幸江（久留米大学医学部薬理学講座）

稲田 健（東京女子医科大学医学部精神医学講座）

中川貴之（京都大学大学院薬学研究所生態機能解析分野）

笠井慎也（東京都医学総合研究所依存性薬物プロジェクト）

橋本恵理（札幌医科大学医学部神経精神医学講座）

山口 拓（長崎国際大学薬学部薬理学研究室）

内野茂夫（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

大谷浩一（山形大学医学部精神医学講座）

吾郷由希夫（大阪大学大学院薬学研究所薬物治療学分野）

児玉 亨（東京都医学総合研究所）

富田博秋（東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野）

森 友久（星薬科大学薬品毒性学教室）

稲垣正敏（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

兼田康弘（岩城クリニック）

溝口広一（東北薬理大学）

岸本年史（奈良県立医科大学精神医学講座）

西澤大輔（東京都医学総合研究所）

若狭芳男（（株）イナリサーチ）

岩本和也（東京大学大学院医学系研究科分子精神医学）

渡辺範雄（名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学）

村井俊哉（京都大学大学院医学研究科・脳病態生理学）

岡澤 均（東京医科歯科大学神経病理学分野）

高橋英彦（京都大学大学院医学研究科・脳病態生理学）

尾藤晴彦（東京大学大学院医学系研究科神経生化学分野）

森 寿（富山大学大学院医学薬学研究部分子神経科学）

一瀬 宏（東京工業大学大学院生命理工学研究科）

喜田 聡（東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科）

加藤正樹（関西医科大学精神神経科）

糸川昌成（東京都医学総合研究所精神行動医学分野）
中村 俊（東京農工大学）

10. その他

脳の医学・生物学会後援承諾について（山脇理事長）
例年どおり後援承認したことが報告された。

11. JSNP の将来の方向性とビジョンについて（フリー討論）

山脇理事長から今後の JSNP の将来について、忌憚のない意見を出していただき、今後の学会の方向性とビジョンについて、協議したいとの主旨説明がなされた。

なお、討論にあたっては、現在の主要な懸案となっている以下の4つの柱を中心に討論を行った。

1) NP の法人化について / 2) CNP との統合について

- ・ 昨年の年会時の理事会では、NP からの提案の形で、CNP との統合においては、2つの法人同士が統合となった場合に、手続きが煩雑になる可能性があることから、実務的な手続き上を優先し、任意団体が法人に吸収される形を取り、提案を行った。状況は変化しているが、こちらの要望を伝えた形である。
- ・ NP と CNP の合同年会において、CNP 法人、NP が任意団体というのは、年会の準備する上でも非常に手間がかかる。税金に関する対応も異なるため、税務署から指摘を受けた場合の対応などもある。一日も早く法人化し、対等な組織状態となった方がよい。

以上、概ね上記の方向性で様々な意見が出されたが、なるべく早い時期に法人化できるように準備を進めることを理事会の方針として決定した。また、法人化のサポートについては、統合契約書にご協力いただいた弁護士の先生にお願いすることとした。

なお、法人化の策定にあたっては、いずれは二つの法人が統合するかもしれないことを念頭にした定款案等の策定を検討し、法人化を進めていくことになった。

3) JSNP の活動をどのように活性化していくか

(1) 海外からの日本の窓口を JSNP がより強く担う。

- ・ AsCNP のリーダーシップを日本（JSNP）が取れるよう力を入れていく。
- ・ 国際学会は会員になるメリットが表に出るようにアピールしている。そういった努力がないと学会の発展はない。

引き続き、国際対応については、NP がアジアの先頭を切って努力していくことが確認された。

(2) 委員会活動の活性化

- ・ 臨床系の会員が魅力を感じるような委員会活動を活性化する
- ・ トランスレーショナルリサーチは、即大学の生き残りに直結していく問題である。当会の特性を活かして、新しい形を作る。
- ・ NP には心理分野の会員が参加しているが、これまで委員会活動等に参加がされていない。評議員も心理系のコアメンバーに声を掛け、意見を吸い上げることが必要である。

(3) 精神科専門薬剤師制度とのタイアップ

- ・ 今回の理事会で承認された新入会のうち 22 名が薬剤師であった。合同年会は、精神科専門薬剤師の取得のための単位にもなることから、そのような背景からの入会と思われる。年会に参加して、勉強したいとの意欲があるように思われる。精神科専門薬剤師制度とのタイアップを進めることによりある程度の会員数の増加が見込と思われる。
- ・ 精神科専門薬剤師の育成については、JSNP が協力団体として、年会以外にも講師の派遣などを行うような活動が必要である。
- ・ 最近、薬剤師も臨床志向になっている傾向が強く、基礎的な研究については、トランスレーショナルリサーチのような下地ができればよい。
- ・ 年会では、薬剤師向けの教育セッション・薬剤師向けのセッションを組む。
- ・ 職能団体が単独で審査していくことには限界があり、多角的な面からの審査・認定が

必要である。NP は精神科専門薬剤師認定における協力団体であるといった活動を行っていく必要がある。薬剤師の入会も増加し、学部で学生会員になり、病院に就職して音沙汰がなくなる状態も改善できると思われる。学会発表からはじまり論文投稿にも繋がり、ポジティブなスパイラルになると期待ができる。

- ・精神科専門薬剤師の認定事業に JSNP も講師派遣など人的な協力を行う。タイアップすることを公の場で広報することが必要である。

精神科専門薬剤師制度とタイアップすることを理事会として承認し、関係理事に協力をいただき、正式な協力体制が組めるように進めていくことになった。

また、11月16-17日に開催される、精神科の懇話会ともタイアップしていくことが承認された。

(4) 基礎研究の確保と専門性の追求と教育について

- ・モデルとして考えられるのが、ACNP である。参加・発表はクローズな学会であるが、最先端の高度な研究が発表され、刺激を受けるとともに、基礎研究に特化している。
- ・基礎研究が臨床にどれだけ役立つのか。みっちり話す研究会があってもよいのはいいか。専門のセッションや研究部会の設置などで NP 内での活動は可能と思われる。
- ・NP の特色・強みは、基礎研究から臨床まで網羅して、探っていける団体であることである。この団体はそのような活動ができる学術団体である。
- ・基礎研究の視点から、若手研究者の意見を集約して理事会へ上げるような形ができるとよい。
- ・JSNP に参加する大きなメリットは基礎と臨床が融合している学会だからである。
- ・若い方に入っていただくことは重要であるが、NP しかできないセッションを作る。“精神薬理”の基礎から臨床までできるのは、NP しかない。
- ・昔、若い人だけの集いの会を設けた。箱だけは、つくり、あとは若手に委ねる。シンポジウムのオーガナイザーには製薬会社の人を充てる。かなり違和感があるセッションかもしれないが、その違和感を楽しめるもの学会のよいところではないか。

未確定のアイデア・意見をどのように形にしていくか、アクションプランをどうするか。短期的・長期的なプランについては、メール等で協議することになった。

以上

平成 24 年 4 月 13 日 (金)
日本神経精神薬理学会
理事長 山脇 成人